

標準を武器にグローバル市場への展開を目指す

国際推進部門 標準化推進室

標準化について

標準化は、普段意識する場面は少ないかもしれませんが、私たちの生活に深く浸透しているものです。例えば乾電池やネジ等は、どのメーカーの製品を購入しても共通に利用可能ですが、これは標準化が行われていることによるものです。特に、情報通信分野においては、様々なネットワークや端末が国内外で相互に接続・利用可能であることが求められるため、標準化は極めて重要となります。

標準には様々な種類のものがありますが、WTO（世界貿易機関）のTBT協定（貿易の技術的障壁に関する協定）では、加盟国に対して、各国の強制規格や任意規格、適合性評価手続を国際標準に整合させることを、また政府調達協定では、政府及びその関連機関が調達する物品の性能に関する技術仕様について、既にそれが存在する場合、国際標準に基づくことをそれぞれ義務付けており、ISO（国際標準化機構）、IEC（国際電気標準化会議）、ITU（国際電気通信連合）等の国際標準は、円滑な貿易の促進、グローバル市場への展開の観点から重要となっています。

国際標準化を巡る動向

国際標準化の場では、自らの強みを活かせるようなルール作りや市場での優位性確保を目指し、参加国や企業の間でさまざまな交渉や駆け引きが行われています。これまで日本では、欧米の優れた制度や標準を取り入れて、それに合わせた製品を製造・販売するビジネスモデルが主流でしたが、モノづくりの競争が激化している今日、国際標準化活動に積極的に参加して、自らの強みを活かせるようなルール作りを主導することにより、市場での優位性を確保していくことが一層重要となっています。

また電気通信分野では、従来は主にITUにおいて国際標準化活動が行われていましたが、現在は、ITUに加えて、IEEE、IETFや多くのフォーラム等においても技術仕様の検討が行われるようになっており、従来と比べると、より広範な対応が必要となっています。

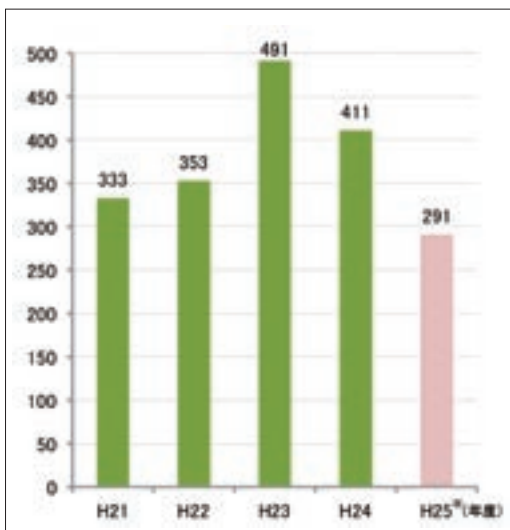
また電気通信分野では、従来は主にITUにおいて国際標準化活動が行われていましたが、現在は、ITUに加えて、IEEE、IETFや多くのフォーラム等においても技術仕様の検討が行われるようになっており、従来と比べると、より広範な対応が必要となっています。



ITU-T Focus Group会合の様子

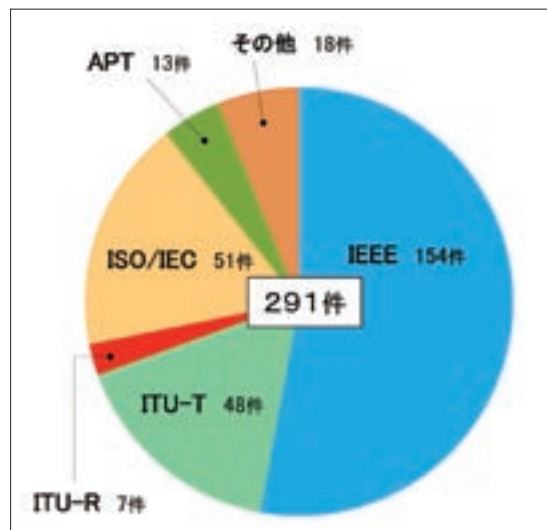


ITU世界テレコム2013でのプレゼンの様子

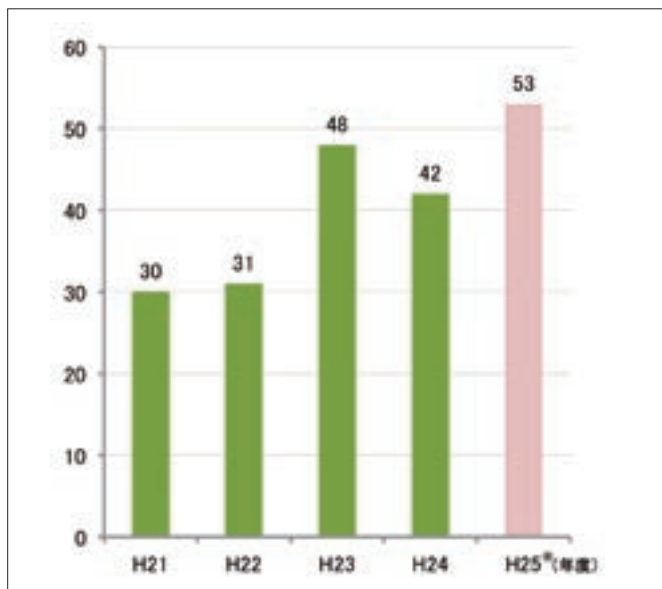


国際標準化寄与文書数の推移

※注：H25年度については11月末までのデータ



H25年4月～11月末の標準化機関別寄与文書内訳



国際標準化役職者数の推移

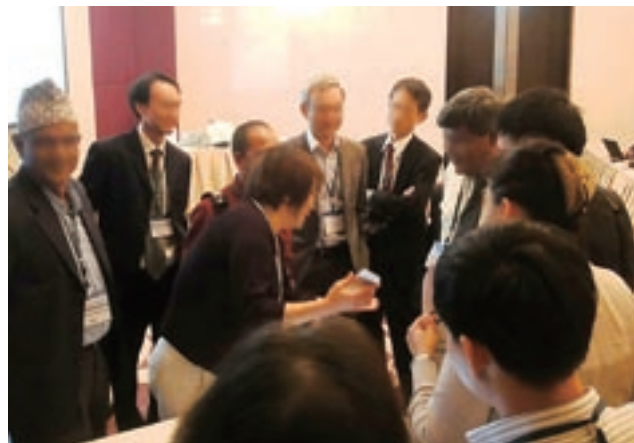
※注：H25年度については11月末までのデータ

NICTと標準化活動

このような中、NICTでは、ICT分野の高度な技術の研究開発に取り組むと同時に、研究開発の成果の標準化や普及促進、グローバルな課題解決に向けた活動を行っています。

現在、新世代ネットワーク、光ネットワーク、ワイヤレスネットワーク、ネットワークセキュリティ、大規模情報処理、電磁波計測等の分野において、研究開発の成果を踏まえて、ITU、ISO、IEC等の国際標準化機関やAPT（アジア・太平洋電気通信共同体）等の地域標準化機関、IEEE、IETF等のほか、国内外のフォーラム等での標準化活動を実施しています。また、中立的な公的研究機関として、国内の標準化に関する委員会や国際標準化団体における議長等の役職者を務めているほか、標準化に関するフォーラム活動や国際会議等の我が国での開催支援等を行っています。

研究開発成果の社会への還元を促進するためには、国際標準化の推進に加えて、標準に準拠した製品・サービスの普及促進も重要となります。このため、標準規格に準拠した製品やサービスを提供するための相互接続性確保のためのアライアンス活動などについても、特定のメーカーや事業者には偏らない中立的な立場から推進しています。具体的には、今後スマートメータやホーム



APT (ASTAP会合)における多言語音声翻訳システムのデモ

ネットワーク等で幅広く利用が予定されている無線通信規格Wi-SUNについて、IEEEにおける国際標準化の推進に加えて、関係企業とともに「Wi-SUNアライアンス」を設置して、相互接続性や互換性の検証を行う相互接続試験を主催する等、普及促進を推進しています。

また、①耐災害ICT研究の成果による地域無線メッシュネットワークや災害情報分析システム、②ボディ・エリア・ネットワーク技術を利用したポータブル・ヘルス・クリニック、③ネットワーク型多言語音声翻訳システム等について、ITU、APTや国際シンポジウム等において実機の展示やワークショップにおける講演等を行い、産業界との連携を進めるなど、積極的な成果普及活動を行っています。

さらに、グローバルな課題の解決に向けて、発展途上国等における医療サービスの不足を解決するための健康診断システムへの技術支援、省エネルギーを実現するための動的な電力需要に対応するためのスマートメータに関する技術の普及促進、国際的な協力体制を構築するためのセキュリティ情報の交換に関する標準化などにも取り組んでいます。

標準化活動は、国内外の政府、産業界、研究機関等との協力関係構築、標準化会議等における継続的な貢献や粘り強い交渉等の地道な努力に支えられています。NICTは、我が国で唯一の情報通信分野を専門とする公的研究機関として、基礎・基盤的な研究開発を進めるとともに、標準化活動を通じた成果の社会還元積極的に取り組んでいます。



ITU世界テレコム2013展示での日本パビリオン内のNICTブースの様子

